



# からしだね

2020年3月号  
(558号)

キリストの受難 カトリック池田教会

主任：ノノイ・プラザ神父

住所：〒563-0041 池田市満寿美町9-26

TEL：072-751-2400 FAX：072-753-4624

URL(ホームページ)：<http://catholic-ikeda.sakura.ne.jp/church/index.htm>



## 本号の記事の主題など

2020年第28回「世界病者の日」教皇メッセージ

大人の日曜学校たより 1月26日

四旬節黙想会は3月29日に開催されます

年間カレンダーに追加・変更された行事予定

「聖書百週間」へのお誘い

## 2020年 第28回「世界病者の日」教皇メッセージ

「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」(マタイ11・28)

親愛なる兄弟姉妹の皆さん

1. 「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」(マタイ11・28)。イエスのこのことばは、恵みへの神秘的な道を指し示しています。それは、素朴な人に示され、疲れた人、弱り果てた人に安らぎを与える道です。このことばは、人の子イエス・キリストの、傷つき苦しんでいる人間に対する連帯の表れです。あまりにも多くの人々が、心身に苦しみを負っています。イエスはあらゆる人に、ご自分のもとに来よう呼びかけておられます。「わたしのもとに来なさい」。そして、慰めと安らぎを約束してください。「こう述べたとき、イエスの目の前には、ガリラヤの路上で日々出会う人々がいました。大勢の庶民、貧しい人々、病者、罪人、律法の重圧や抑圧的な社会構造によって疎外された人々です。これらの人々は、希望が与えられるイエスのことばを聞こうと、……いつもその後をついて回りました。イエスのことばはいつも希望を与えてくれます」(『お告げの祈り』でのことば(2014年7月6日))。

この第28回「世界病者の日」に、イエスは病者、抑圧された人、貧しい人を招いておられます。自分が完全に神に頼っていることを知っているその人々は、試練の重荷によって傷つき、いやしを求めています。もろさ、痛み、弱さを抱えた自身の状態に苦悩する人々に、イエス・キリストは律法を課すのではなく、ご自分のあわれみを、つまりいやし手であるご自身を与えてくださいます。イエスは傷ついた人類を見つめておられます。奥深くにまで届くそのまなざしは、見て、気づきます。無関心にはならず目をとめ、どのような健康状態にあってもだれ一人排除することなく、人間のすべてを受け入れ、ご自分のいのちに入り、優しさに触れるよう、一人ひとりを招いておられます。

2. イエス・キリストは、なぜそのような思いを抱かれるのでしょうか。ご自身が弱い者となって人間の苦しみを経験し、御父のなぐさめをご自身も受けたからです。実際に自分自身でそれを経験した人だけが、人を慰めることができるのです。苦しみの厳しさはさまざまです。難病、精神疾患、リハビリや緩和ケアを要する状態、さまざまな障がい、小児疾患や高齢者疾患などです。こうした状態においては、人間らしさが奪われるように感じられることがあります。

ですから、全人的な回復のためには、治すだけではなく相手を思いやり、それぞれの病者に合わせて対応することが求められます。人は病気になると、身体の健全だけでなく、人間関係、知性、情緒、精神も脅かされているように感じてしまいます。だからこそ、治療だけでなく、支え、気遣い、思いやり……、ひとこと言えば、愛を期待するのです。さらに病者の傍らには、同じく慰めと寄り添いを求めている、苦しむ家族がいます。

3. 親愛なる兄弟姉妹である病者の皆さん。病は、独自のしかたで皆さんを、イエスのまなざしと心を引きつける「疲れた者、重荷を負う者」にしてくれます。それによって、あなたがたの闇の時間に光が射し、失意に希望が訪れます。「来なさい」、イエスはそう言って、ご自身のもとへと招いておられます。この心身の「暗夜」にあって生じる不安や疑問を乗り越える力は、まさしくイエスのうちにあります。キリストは処方箋を手渡すのではなく、ご自分の受難と死と復活によって、わたしたちを悪の支配から解放してくださるのです。

そうした状態にあっては、元気を取り戻す場が確かに必要です。教会はよりいっそう、キリストであるよいサマリア人の「宿屋」(ルカ10・34参照)でありたいと望んでいます。それは、親しさ、歓迎、慰めのうちに示されるキリストの恵みが見いだされる家です。そこで出会うのは、その弱さにおいて神のあわれみによっていやされた人々です。彼らは、皆さんの傷口を小さな窓に変えることによって、十字架を担う皆さんを支えることができます。その窓を通して皆さんは、病気の彼方の地平を見つめ、生きるための光と空気を受け取るのです。

病に苦しむ兄弟姉妹の回復のために、医療関係者、医師、看護師、衛生と管理のスタッフ、助手、ボランティアのかたがたが貢献しています。病者を慰め、傷をいやしながら世話してくださるキリストの現存を感じさせることを通して、彼らはその能力を駆使して働いています。けれども、こうした人々もまた、弱さを抱え、病気になることもある人間です。このことばは、とりわけ彼らに当てはまります。「キリストの安らぎと慰めを受けたなら、今度はわたしたちが、主に倣って柔和で謙遜な姿勢で、兄弟姉妹の安らぎと慰めにならなければなりません」(『お告げの祈り』でのことば(2014年7月6日))。

4. 親愛なる医療関係者の皆さん。あらゆる診断、予防措置、治療、研究、介護、リハビリテーションは、病気の人のために行われるものです。ここでは「人」という名詞が、必ず「病気の」という形容詞よりも大切にされなければなりません。ですから、つねに人間の尊厳といのちのために働き、もはや回復の見込みがない病であったとしても、安楽死や自殺ほう助、いのちを奪う行為に、決して屈しないでください。

ますます疑問視される臨床例や致命的な誤診を前に、医学にも限界があり過失が起こりうることを経験している皆さんは、自分の職業に十全な意味を与えることができる、超越的な次元へと自らを開くよう招かれています。いのちは、神聖で、神に属するものであり、それゆえ侵すことも意のままにすることもできないこと(『生命のはじまりに関する教書』5、回勅『いのちの福音』29 - 53参照)を思い起こしましょう。いのちは始まりから死に至るまで、受け入れられ、守られ、尊重され、仕えられなければなりません。人間の理性と、いのちの創造主である神への信仰の双方が、そのことを要求しています。いのちと人間を一貫して「肯定」し続けるためには、場合によっては良心的拒否を選択しなければならぬこともあります。いずれにせよ、キリスト者としての愛から力を得ている皆さんの専門職は、生きる権利という真の人権への最上の奉仕であり続けるでしょう。たとえ治せなかつたとしても、病者に安らぎと慰めを与える行いや工夫によって、いつでもいやすことができるのです。

不幸なことに、戦争や武力紛争下にある地域では、病者の受け入れと救護に従事する医療関係者や施設が標的にされています。また、政府が自分の利益のために医療活動を操作しようとして、医療専門職がもつ正当な自律性を制限している地域もあります。社会というからだの、苦しんでいるメンバーに尽くす人々を攻撃しても、まったく何の益にもなりません。

5. この第28回「世界病者の日」にあたり、貧困のうちに生活しているために治療を受けられない、世界中の大勢の兄弟姉妹のことを思います。ですから、経済的な思惑から社会正義をおろそかにしないよう、世界各国の医療機関と政府に呼びかけます。連帯の原理と補完性の原理を組み合わせることにより、健康の維持と回復に向けた十分な処置をだれもが受けられるよう協力することを願ってやみません。病者に奉仕するボランティアのかたがたに心から感謝します。彼らは、構造的な欠陥を幾度も補い、優しさと親しみにあふれる行いを通して、キリスト、よいサマリア人の像を映し出しています。

病気という重荷を担うすべての人とその家族、そしてすべての医療関係者を、病者のいやしであるおとめマリアにゆだねます。わたしは祈りのうちに皆さんに寄り添うことを約束し、心から使徒的祝福を送ります。

パチカンにて

2020年1月3日 イエスのみ名の記念日

フランシスコ

### 四旬節黙想会は3月29日に

四旬節黙想会の指導者は聖パウロ修道会の赤波江謙一神父様です。

研修委員会

### 表紙の絵について

3月は聖ヨセフの月である。聖ヨセフの祝日は3月19日。表紙の絵はグイド・レーニという画家が1635年ごろに描いた油絵である。聖ヨセフは、義人で忠実な人であり、イエスの養父であるという観点から、老成した人物として描かれている。1870年に教皇ピウス9世により、聖ヨセフは全教会の普遍的な守護聖人となった。作品はエルミタージュ美術館蔵。

### 「聖書百週間」へのお誘い

「聖書百週間」に参加しませんか  
約100週間(実際には4年近く)かけて旧約聖書と新約聖書を読みます。

なかなかひとりでは聖書を全部よむのは大変ですが、毎週仲間と少しずつ読んでいくと新しい発見があります。わからないところは神父様に説明していただきます。4月16日から新しくはじまります。是非いらして下さい。お待ちしております！

日時:毎週木曜日 10:30~

場所:カール記念館2F 会議室

## 大人の日曜学校たより 1月26日

「わたしについて来なさい」 マタイ 4.19

大人の日曜学校ではまず初めにその日の福音を読み心に残った箇所、心にひびいたことばを2、3回繰り返して読みます。

この日は、イエスがペトロとアンデレに言われたことば「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう」につづく箇所を選んだ人が多かったです。それは「二人はすぐに網を捨てて従った」という箇所です。そのあとのヤコブとヨハネもすぐに船と父親を残してイエスに従います。とてもなかなか全部を捨てては行けないというのが大半の意見でした。

いろいろなじがらみが多すぎてなかなかすぐには思えない一方ペトロたちがイエスに会った瞬間すべてをおいて従うほどこの出会いはすごかったのだろうなあとと思います。この箇所の前にイザヤ書の言葉がかかれています。「暗闇に住む民は大きな光を見、死の陰に地に住むものに光が射し込んだ」きっとこの出会いは大きな光が射し込むような出会いだっただろうと思います。

わたしもこんな出会いがしたい.....いやもうしているのに気が付いていないだけかもしれません。大事な出会いを見逃さない信仰をいただけるよう祈りたいと思います。

### 年間カレンダーに追加・変更された行事予定

3/1、15、22(日)	13:00 ~ 14:30	カテキズム勉強会
3/12(木)	10:30 ~	聖書百週間
3/13、27(金)	14:00 ~ 16:00	福音書を学ぶ会
3/29(日)		四旬節黙想会

※2/29 ~ 3/14まで教会の諸行事・講座は、新型コロナウイルス拡散防止のため中止となっています。

## 宝塚黙想の家から黙想会のお知らせ

### ■ 日帰り黙想会

3月26日(木) 10:00 ~ 15:30

指導: 染野治雄 神父

3月27日(金) 10:00 ~ 15:30

指導: 山内十束 神父



### ■ 月例(週末)黙想会

3月11日(水) 17:00 ~ 12日(木) 15:30

指導: 山内十束 神父

各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで。 ☎0797(84)3111

## 編集後記

阪神淡路大震災から四半世紀を経、神戸市等では未体験者人口が上まわっているとの報道があった。その後、日本列島は幾つもの震災に見舞われ、かつ近い将来にも大規模な地震が予測されている。

池田教会を振り返ると、旧司祭館(古い日本家屋)を今のカール記念館に建て替えていた後に、阪神淡路大震災が起きた。もし、建て替えていなかったら旧司祭館はどうなっていたらか、今更ながら思う。

一昨年、6月18日に発生した大阪北部地震での聖堂の被害を踏まえ、いよいよ今期復活祭後に聖堂の耐震工事が始められる予定だ。工事期間中なにかと不便なことがあるだろうが、万が一の時に備えたい。

天使の微笑

3月のガラスケースのことば

木は、それぞれ、その結ぶ実によってわかる

ルカ 6・44